

山小屋トイレの現状

自然保護課

1 現況

県内 160 の山小屋の内、トイレが整備済みの山小屋数が 120 箇所、整備率は 75.0% (H24 年度末見込み) となっている。

なお、生物多様性なごの県戦略 (H24, 2 策定) では、H32 末までに整備率を 85% とすることとしている。

2 山小屋トイレの課題

(1) 厳しい立地条件により、建設、維持管理等大きな費用がかかるため、整備はなかなか進まない。

- ・建設費：平均 3,700 万円 (H11~H22 年度 国補助金箇所の平均)
- ・維持管理費：年間 50~300 万円 (バキューム 50 万円、ヘリ搬出 300 万円等)
- ・利用料等：北アルプス南部、御嶽山等の山域で利用料として 100 円、その他の北アルプス、八ヶ岳での山域ではチップを徴収し維持管理に充てているが、充当率は 20~50% 程度

(2) H22, 6 環境省行政事業レビュー (省庁版事業仕分け) で、利用者負担の原則等の観点から補助事業が廃止となった。それを受け、環境省では「山岳地域環境保全対策等検討会」を設置し検討を重ね、県も含めた各界からの要請もあり、H23 から新たな事業「山岳環境保全対策支援事業」を創設した。

しかし、H23, 11 の行政刷新会議において「見直し余地がある」と指摘を受け、予算の減額 (1.5 億円→1.05 億円)、対象事業の絞り込み等が行われており、いまだ予断を許さない。

3 山岳環境保全対策支援事業 (国直接補助)

- (1) 事業主体：山小屋事業者 (民間のみ)
- (2) 対象事業：し尿処理施設、給水施設
- (3) 補助率：1/2 (事業費等に対する制限なし)
- (4) 事業の特徴
 - ・地域協議会から推薦されたものを国が審査したうえで助成。
 - ・宿泊者のみでなく、通過者用のし尿処理施設を義務付け。
 - ・使用料の徴収と利用者への PR が原則。
- (5) 県の役割：地域協議会事務局を担い、事業導入に向けた条件整備や調整等のコーディネートや山小屋関係者による受益者負担への取組みをサポート。
- (6) H24 実績見込みと H25 計画

	公園名	市町村	名称	事業費(千円)	補助金(千円)
H24 実績	御岳県立	木曾町	女人堂	38,010	17,990
	"	王滝村	王滝頂上山荘	32,900	16,350
	中部山岳国立	松本市	岳沢小屋	10,920	5,170
	"	"	ヒュッテ大槍	23,310	11,030
	合計			105,140	50,540
H25 計画	御岳県立	王滝村	剣ヶ峰山荘	35,800	15,250
	中央アルプス県立	宮田村	天狗荘	52,500	22,250
	合計			88,300	37,500

(7) その他

県立公園は H25 までが対象であることから、県立公園を先行実施する方針。

山小屋トイレの有料化について

各種資料から税務課作成

○山小屋トイレの形態

- ・地下浸透方式（穴埋め方式、ガレ場放流）
- ・環境配慮型トイレ（バイオ式、便槽交換式）

○山小屋トイレの有料化

- ・山岳地のトイレ整備に対する国庫補助制度の見直し（きっかけ）
事業仕分において、制度を継続する条件として利用者負担の仕組みの導入が求められた。

○山小屋トイレの有料化の実施例

- ・任意のチップ制から有料化へ
従来は任意のチップ制であったが、ヘリコプターによるし尿搬出などの維持管理経費に充てるため、料金の徴収を開始する傾向にある。
- ・北アルプス南部地域協議会
H24 から、山域単位では全国初となる山小屋トイレの有料化。
使用料は1回100円。
- ・御嶽山地域協議会
H24 から、改修が済んだ山小屋トイレを有料化。徴収を使用規則で定め、統一した料金箱を設置。
使用料は1回100円。

（参考）

平成24年度に集まった金額（御嶽山地域協議会の例）
一の又行場小屋：約11万円（年間維持管理費の半額）
石室山荘：約17万円（同 約4割）